

歴史に学ぼう

莊司雅子

同じ雌性卵から生まれてきていながら女王蜂は働蜂に比べて体格が大きく、寿命も働蜂の一年や数カ月に比べて四、五年も長いのはなぜだろうか。専門家によれば、それは女王蜂が幼虫時代に働蜂よりもきわめて豊富にローヤル・ゼリーを摂取するため、このような結果になるのだという。なるほど同じく摂取するにしても幼虫時代にしないと効果がないというわけである。

自然の発達法則というものは、まことに正直なものである。いやしくも地上に生を受けているものは、動物や植物に限らず、人間もまたこの自然の発達法則に逆らうことはできないであろう。人間の場合、幼児期に何を飲み、何を食べ、何を見、何を聴き、何に触れ、またどんな遊具で遊ぶかなどによってその後の生命の構造に大きな差異を生ずることは、心理学者や社会学者の調査統計をまつまでもなく、現実のわれわれの身近でたえず見聴きしているところである。とくに最近の多くの青少年の非行や自殺他殺行為、発達のいろいろな

ゆがみなどは、いずれもその原因を幼年期に多くもつていることでわかる。それもほとんどが、親や保育者や教師の幼児に対する理解の不足と、子どもの発達段階に即さないあつかい方からきていると指摘されている。今日の親や保育者や教師は、とかく性急に幼児に多くのものをつめ込み過ぎたり、逆に幼児期にあたえるべきものをあたえずに放任したりすることが多い。

このことについては、すでに一世紀半も前に幼児教育の重要性を強調し、世界最初の幼稚園を創設したフリードリヒ・フレーベルが、かれの著書『人間教育』のなかで世の人びとに次のように呼びかけている。「庭や野原や牧場や森を逍遙する人びとよ、なぜあなた方は自然が沈黙のうちにあなた方に教えているものを聞くために、あなた方の心を開かないのか」フレーベルは幼児期の保育や教育は、とくに自然の発達法則に従わなければならないと強調している。そして「世の親たちよ！早くから本性に反して礼儀や作法や仕事をおし

つけられ、そのために病的な不自然な姿であなた方のまわりをさまよっているあなた方の子どもたちが、果して立派に成長し円満に発達する人間になることができるであろうか」と問いかけています。

あらためて乳幼児の保育や教育のあるべき姿が求められている今日、フレーベルの幼児教育の理論と方法は、常に今日のわれわれが直面している問題に答えてくれる。歴史に学ぶべき意味はここにある。とくにこのことを私はフレーベル全集の翻訳を通して痛感している。玉川大学出版部から出ているフレーベル全集の第四巻の原稿を私は目下推敲している。

第四巻は『幼稚園教育学』であるが、これは四十年前に私が若き情熱を傾けて訳した未完成の原稿である。今あらためて一世紀半近く前に書かれたフレーベルのこの『幼稚園教育学』が、如何に今日のわれわれの保育や教育の問題に答えているかに驚いている。内容はほとんど乳幼児の遊びと遊具(恩物)の理論と方法であるが、いずれも乳児や幼児の発達に即した遊び方や遊具を提案し解説している。たとえば第六章の「遊具と子どもの遊び」では次のように書き始めている。「子どもの身体的な生命の維持と強化と発達のための最初の身体的な栄養は、子どもの消化器の発達と調和していなければなら

ないように、子どもの精神的生命の最初の保育や栄養もまた子どもの四肢、特に感覚器官の発達と密接に調和していなければならぬ」この精神的生命の保育のために、フレーベルは乳児から遊ばせる遊びと遊具を提案したのである。今日の保育や教育は、自然科学的な意味においてきわめて科学化されてきたことは大いなる進歩であるといえるが、保育の真髄に触れる点ではきわめて不十分であると指摘することができ。その点で私は今こそあらためて真に幼児教育の本質を教えている歴史に学ぶべきことを痛感している。

歴史に学ぶといえば、この度復刻された『幼児の教育』は、すでに私が推せん文に述べておいたように、これは単に過去のものであって今日のわれわれにとってもはや無用のものであるというものではない。それはむしろわれわれに明日への教育を考える資料をあたえてくれるものである。その点で復刻されたこの『幼児の教育』は、当時のわが国の幼児教育を知り、今日の幼児教育を考え、未来のあるべき幼児教育の姿を求めるためのよき指針であると思う。歴史はつねにわれわれに過去において成功したこと失敗したことを告げてくれる。その意味で過去はつねに現在に生きているのである。歴史に学ぶゆえんもここにある。

(聖和女子大学)